

平成 25 年 11 月 21 日

各 位

会 社 名 日本精密株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡林 博
(J A S D A Q コード 7 7 7 1)
問合せ先 上席執行役員 朴成鎮
(電話番号 048-225-5311)

A S E A N プロジェクト並びに 2018 年 3 月期利益計画の策定に関するお知らせ

当社は 1978 年創業以来、腕時計関連の部品製造をメインにメガネフレーム等、精密部品加工業として業務拡大してまいりました。A S E A N (ベトナム) へ進出した先駆者として、いち早く現地での一貫生産体制を構築したことにより、顧客からの高い信頼を得、コスト競争力と相まって現在も成長を続けております。

当社は今後のさらなる成長を目指し、この度『A S E A N プロジェクト』を策定いたしました。カンボジアに新工場を建設し、ベトナム工場とのシナジー創出によるさらなる生産体制の拡充を図るとともに、同地域において一大サプライチェーン構築までを視野に入れたものです。同プロジェクトの策定に併せて、今期を含む 2018 年 3 月期利益計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

1. A S E A N プロジェクト及び 2018 年 3 月期利益計画策定の背景

当社は、世界に誇る“日本のものづくり技術”を世界市場で勝てる事業へと革新するため、1994 年 3 月にベトナム工場を設立し、日本企業としては最も早く A S E A N へ進出いたしました。長年にわたる生産技術の移管や現地技術者の育成により、同工場は金型製作～プレス～機械加工～バフ研磨～表面処理までの一貫生産体制を構築しており、A S E A N 地域で唯一の高付加価値製品の製造が可能な技術力と生産能力を有しております。また、近年ベトナムにおいても賃金水準が上昇しておりますが、依然として中国国内の半分程度という人件費の安さを背景に、多数の熟練技術者を有しながら海外市場で勝てるコスト競争力も実現しております。

しかしながら、ベトナムの平均賃金水準も今後は上昇が見込まれるなど、単なる生産力の増強だけでは今後の対応は困難であり、そこにさらなる戦略性も付加した A S E A N プロジェクトの策定にいたしました。

2. A S E A N プロジェクトの骨子

A S E A N プロジェクトにおきましては、時計関連事業の強化だけではなく、メガネフレーム事業の強化についても実行してまいります。また、前述のような中国内の変化を踏まえ、中国系メーカーのカンボジア工場敷地内への移転誘致、サプライチェーンの構築等も計画をしております。

また、施策の進行に伴い人員のシフトを行うことにより、人員増による売上原価・販管費の上昇を極力抑制する計画となっております。

フェーズ1 2013年～2014年

カンボジア工場の新設、労働集約型製品の生産移管

ベトナム工場は高付加価値の提供へとシフト及び自動化の推進

フェーズ2 2014年～2015年中盤

カンボジア工場の敷地内へ、中国系メーカーを誘致

フェーズ3 2016年中盤～

カンボジア工場の敷地内における本格的な生産拡大

3 2018年3月期利益計画

A S E A Nプロジェクトの推進による2018年3月期利益計画は以下の通りです。

単位：百万円	2013/3期	2014/3 今期見込	2018/3 計画
売上高	5,585	6,547	10,000
時計関連	3,350	3,923	6,050
メガネフレーム	1,953	2,322	3,590
その他	282	301	360
営業利益	103	230	800 +
経常利益	105	196	700 +
当期純利益	90	175	600 +

E P S	5.96 円	11.50 円	39 円以上
営業利益率 (%)	1.8%	3.5%	8%以上

事業別売上目標

(単位：百万円)	2014/3 期 (今期見込)	2018/3 期 計画
時計関連	3,923	6,340
メガネフレーム	2,322	3,300
その他	301	360
合計	6,547	10,000

以上